

(不誠実対応-35)

悠生君が行方不明の状況では、開所するよりも悠生君の搜索を優先すべきだったと、悠生君の母親(清水亜佳里)が発言。これに対し、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、それはお母さんの考えであると一蹴(宇津雅美達はその様には思っていない事を示唆)。

この発言の真意を確かめる為の遺族側から質問したが、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、ふてぶてしい態度で矛盾する回答を続けたと遺族は感じた。

(音声ファイル-35) [0:00:00] ⇒ [0:01:48]

(会話内容及び、説明)

[0:00:00] 悠生君の母親 (清水亜佳里)

(会話内容の要約)

子供が居なくなって、まだ見つかっていない状態。それもアルプスの森(施設長:宇津慎史)の落ち度。しかしアルプスの森(施設長:宇津慎史)側は、まともに子供を探さず、開所(通常運営)を続けた。それは社会的には理解を得ることが出来ないのではないかと発言。悠生君の搜索には、もっと人数が必要だった。アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、一旦、施設の通常運営を停止し、悠生君の搜索に多くの人数を割くと言う判断をすべきだった。

[0:00:42] 児童発達支援管理責任者 (宇津雅美)

(ふてぶてしい口調で)「開所しているのに、全員が(悠生君の搜索に)行ったら、だれがここ…」と発言

[0:00:46] 悠生君の母親 (清水亜佳里)

「だから、その開所がおかしいのです。」と説明。

*アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、自分達の落ち度で子供が行方不明になっている状態であるのだから、一旦は施設の開所をやめ、悠生君の搜索に全力を尽くすべきであったと悠生君の両親は考えている。すなわち、悠生君の搜索を開所に優先すべきであったと悠生君の両親は考えている。このような考えのもと、悠生君の母親は上記発言を実施。

[0:00:50] 児童発達支援管理責任者 (宇津雅美)

上記の悠生君の母親の発言に対し宇津雅美は、「それは、御母さんの考えです。」と発言。

*アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、自分達の落ち度で子供が行方不明になっている状

態であったにもかかわらずアルプスの森(施設長:宇津慎史)は、行方不明の子の搜索に全員で当たる事はせず、開所する為の人数を確保した。

この為、悠生君の母親が、開所していること自体がおかしいと指摘したところ、宇津雅美は、「それはお母さんの考えです」と発言。

この発言は、自分たち(アルプスの森(施設長:宇津慎史))は、行方不明の子の搜索に全員であたる必要はなく、開所することに人数を割くことは妥当と考えていることを意味する。

[0:00:56] 悠生君の父親(清水悠路)

上記発言が宇津雅美からなされたことから、真意確認のため、「**宇津さんとしては、子供の搜索よりも開所する方が重要だと思ったということですか?**」と遺族側は宇津雅美に尋ねた。

[0:01:03] 児童発達支援管理責任者(宇津雅美)

上記質問に、(ふてぶてしい口調で)「**そんなことは一言も言っていません。**」と発言。

[0:01:09] 悠生君の父親(清水悠路)

アルプスの森(施設長:宇津慎史)が、悠生君の搜索に全力を投入せずに開所を続けたのは事実である。少なくとも、子供の搜索を最優先している状況ではない。従って、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側が、優先順位をどの様に捉えているのかを確認する目的で、以下の発言を悠生君の父親(清水悠路)はしている。

「**私たちは、開所するよりも行方不明の方に対応の方が重要じゃないの?と言ったら、それはあなた方の考えでしょう?っという話ですよ?**」

[0:01:18] 児童発達支援管理責任者(宇津雅美)

しかしながら、上記の 悠生君の父親(清水悠路)の発言に対し、宇津雅美は「**そんなことも言っていません。**」「**そんな話もしていません**」と発言。

* [0:00:50] に児童発達支援管理責任者(宇津雅美)が開所よりも、悠生君の捜査が重要である事を指摘した悠生君の母親の発言に対して、「**それは、御母さんの考えです・**」と発言した自らの発言内容をここで自ら否定。

[0:01:22] 悠生君の父親(清水悠路)

アルプスの森(施設長:宇津慎史)側は自らの直前の発言を否定するような発言を行っており真意が不明な状態に陥った。従って、悠生君の父親(清水悠路)は優先順位の捉え方そのものへの回答は不可能と考え、開所自体が重要と認識していたのかの確認のた

め以下発言を実施。

「でも、開所は続けるのは重要だと思われたのですよね？」

[0:01:25] 児童発達支援管理責任者（宇津雅美）

上記発言に対し、「そんなことも言っていません。」と発言。

* 「開所は続けるのは重要だと思われたのですよね？」との発言に対してですら、そのような事も言っていませんと発言。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、自分たちの落ち度で子供が行方不明の状態に陥っているにも関わらず、子供の捜索に全力を投入する事をせず、開所を続けた。この為、悠生君の両親は、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が開所を続けることが重要だと思っていたのか確認したのだが、児童発達支援管理責任者（宇津雅美）の上記発言より、宇津雅美が開所を続けることが重要だと思っていなかった可能性が示唆された。

これら宇津雅美の一連の発言をまとめると、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側は、たいして重要だと思っていなかった開所を続けたことになる。しかしこの開所を続けた事で、全力を挙げて悠生君の捜索に取り組むことをしなかったことになる。

[0:01:29] 悠生君の父親（清水悠路）

「優先かどうかは別として、何故開所を続けたのですか？それが重要だと思われたからではないのですか？」と質問。

[0:01:34] 悠生君の母親（清水亜佳里）

「子供を見つけるよりも、…」

[0:01:36] 児童発達支援管理責任者（宇津雅美）

「子供を見つける行為もしましたし、ここを利用したいと言うお母さん方のご希望もあったので、両方を選択しました。」と発言。

[0:01:44] 悠生君の母親（清水亜佳里）

「あのね、両方なんてありえないですわ。こんな、最悪な状況になってね。」